

寺報

常清寺だより

住職挨拶

榮玉山 常清寺 第二十三世

住職 片山慶宣

向暑の候、檀信徒の皆様お健やかに過ごしのことと存じます。

さて、当山駐車場の擁壁工事も無事終了し本年後半より令和八年に向けて地下並びに一階の内装工事に取り掛かります。工事中はご迷惑をおかけいたしますが、令和七年までに完成予定です。よろしくお願いたします。

今回は大変悲しいお知らせですが、当山世話人の小井戸勝巳様、福井則旭様、山田達也様三人の有力なお世話人様が、いづれも亡くなられご家族も信じられない状況でした。開山三百五十年、並びに新任職入寺式の準備で度々お寺にお

いで頂き貴重なご意見を頂戴しておりました。心よりご冥福をお祈りいたします。また、

当山でいつも駐車場の整理等お檀家の皆様と接していた丸尾實様も四月八日永眠されました。丸尾さんは当山霊園を開発されたジャパンストンの従業員で販売の責任者で販売終了後定年を迎え当山のお手伝いとして活躍されました。奥様が透析の治療で一日おきに当山のお仕事をされ平成三十年に奥様を亡くされ、その後元日以外はお寺のお仕事を下さりお檀家の皆様とも親しく交流のあった方ですから、ご存じの方も多いと思います。お寺の為に誠心誠意尽くされた方ですから、亡くなったのが四月八日お釈迦様の誕生日に、私の娘に看取られ安らかに永眠されました。お子様がいらっしゃらないので奥様とご一緒に霊山堂に埋葬予

定です。

早いもので令和六年度盂蘭盆会施餓鬼法要の御案内の時期になりました。

施餓鬼

「施餓鬼会」「施餓鬼法要」と呼ばれております。地域によつては「川施餓鬼」「海施餓鬼」が行われます。

お釈迦様の弟子阿難尊者あなんそんじゃの前に、口から火を吐いている餓鬼があらわれて「おまえの寿命はあと三日だけで、死んだら餓鬼になる」といわれます。そこで、お釈迦様に教えられたお経を唱え、餓鬼に飲食の施しを行うことによって寿命を延ばして天寿を全うできたと伝えられております。

仏教では、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天・声聞・縁覚・菩薩・仏と十個の世界があると考えます。

日蓮上人は「瞋しんは地獄、貧は餓鬼、痴ちは畜生」すなわち怒るのは地獄の心、貪るのは餓鬼の心、愚かなのは畜生の

心と述べられております。人はみな、心の状態によつて、仏様の世界にいることもあれば、餓鬼界にいることもあるのです。

★現在客殿改修工事の為ご不便を、おかけ致しますがご協力よりしくお願い致します。

令和六年度施餓鬼法要

七月十二日(金)

午前十一時より

新盆の方中心の法要

午後二時より

一般の檀信徒中心の法要

大変恐縮ですが、お塔婆のお申し込みは、六月中にご返信下さい。

お願い

住所変更、電話番号の変更等必ずお寺にご連絡宜しくお願い致します。又宜しければ携帯電話の番号を教えて頂ければ幸いです。宜しくご協力お願い申し上げます。

副住職のお便り

合掌

副住職 片山 徳宣

令和六年も半年を過ぎようとしてます。皆様は寒暖差の激しい冬から春を無事にお過ごし出来たでしょうか？

住職・母・私も何とか乗り越えました。ただ、夏の暑さに今から戦々恐々としております。檀信徒の皆様にご報告が御座います。

当山の「寺男」とも申すべき、丸尾 實氏が四月八日にお亡くなりになりました。「丸尾？」誰？と思われる方も多いかと拝察いたします。

時には「駐車場のおじさん」・「豚のおじさん」等々

名前は知らないけど「常清寺に居るおじさん」と言えばピンとくる方は解ると思います。丸尾さんは正月の元日以外お寺を休むことなく常清寺の為に尽くしてくれた方です。特に両者に契約も無くただただ毎日来てくれました。亡くなる寸前まで常清寺に来ようとしてくれました。お医者様も不思議がるく

らい自覚症状もなく本人の体が動くならばバイクで来ようとした位です。二月八日に体調の不調を感じ、お医者様から余命一

か月を宣告されても二か月も頑張ってくれました。亡くなる前日にお見舞いに行っても私の手を力強く握り返したので、まだ

まだ大丈夫と感じたくらいです。朝の七時過ぎに妹から訃報の一報が届いた時には私は悲しい気持ちよりも先に、お寺の事を第一優先で尽くしてくれた丸

さんだからお釈迦様のお誕生日に旅に出掛けたんだな！奥様の所に無事に着けるな！と感じました。

人が亡くなった時に安心する気持ちになったのは不思議な感覚です。

丸さんには言葉では言い尽くせないくらい常清寺の人間は感謝しております。ただ、亡くなり方が急すぎます。何処に何があるとも言わずに旅立ちました。今後、丸さん任せていた駐車場や様々の事に檀信徒の皆様にご不便お掛けしてしまう事もあるかとおもいますがご寛容の程宜しくお願い致します。

令和六年四月八日
俗名 丸尾 實
享年七十八歳
常篤院日實信士 位



丸さんはお子様の居ないご夫婦でしたので、本人になり変わりの山内一同お礼申し上げます。「生前は大変お世話になりました。」

こうした、悲しい報告になってしまいました。これからも宜しく願いし檀信徒皆様のご多幸を祈念致します。

再拝

合同役員会開催

去る二月二十日、常清寺の合同役員会（総代会・護持会・世話人会）が行われました。この日は現住職の師父である第二十二世一慶院日随上人の祥月御命日にあたり毎年この日に法要と会議が行われます。

午後四時から会議、五時から

法要が行われました。

会議は住職のご挨拶に続き昨年交代した竹村前筆頭総代及び大野新筆頭総代のご挨拶があり議題に入りました。

開山三百五十年記念事業委員会の勝田事務局長から記念事業の勧募状況、これまでの収支状況及びこの時点で勘定を一度締めて再スタートしたい旨の説明があり質疑応答が行われました。続いて我妻護持会会長から令和五年度の護持会会計報告と三百五十年記念事業の記念誌発行の進捗状況についての説明と質疑応答が行われました。役世話人会代表から令和五年度において小井戸様、山田様両世話人がご逝去された旨の報告がありました。

その後三月に福井則旭様がご逝去されました。
（お三方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。）





役員会



住職の挨拶



吉田総代の閉会挨拶



役員会

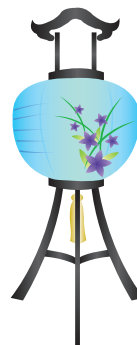
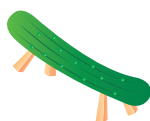
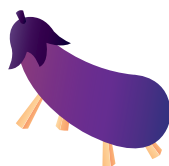
「仏事Q & A」

Q：お盆にはご先祖がかえってくるのですか？

A：お盆にはご先祖の霊がかえってくると言われています。十三日の夕方に「迎え火」を焚いて先祖の霊を迎え、十五日又は十六日の夕方に「送り火」を焚いて先祖の霊を送ります。精霊棚にキュウリの馬とナスの牛を供えますが、迎えは馬で急いで、帰りは牛でゆっくりと言う意味だそうです。かつては迎え火を墓前で焚いて、その火を仏壇まで持ち帰っていたと言われていますが墓地と家との距離が遠くなるなどの生活環境の変化から家の前で迎え火を焚き、提灯を門口に下げるようになりました。送り火は家の前で焚きます。その大がかりなものが有名な京都の「五山の送り火」です。日本各地で行われる盆踊りはいえってきた精霊を供養するものです。

中央の櫓は精霊棚、提灯は灯籠をあらわしています。

(出典：日蓮宗現代宗教研究所「仏事Q & A」)



令和5年度護持会会計報告

入金の部

款	項	項目名	摘 要	収入金額	備 考
1		繰越金	前年度繰越金	▲ 364,703	
2		護持会費	令和5年度入金	3,704,991	1口10,000内訳（護持会費5,000営繕積立金5,000）
		合 計		3,340,288	

支出の部

款	項	項目名	摘 要		支払金額	備 考
1	1	振込金	振替手数料		66,991	332口
		小 計			66,991	
2		保険料				
	1		自動車		100,000	
	2		保険（火災・地震・家財）		501,510	
		小 計			601,510	
3	1	租税公課				
			宗務所費		136,120	
		小 計			136,120	
4		仏具等				
	1		正法堂（暦）		102,074	
	2		丸井紙店（金方除）		49,938	
	3		仏具費		663,647	
	4		日蓮宗新聞社		123,000	新聞、その他
		小 計			938,659	
5		事務通信費				
	1		常清寺だより（年2回）		123,200	
	2		封筒・はがき代		178,068	
	3		ホームページ保守管理		201,902	
	4		送料等		230,510	
	5		事務機器メンテナンス・事務費		542,479	事務機器購入費、宛名印刷機リース代含む
		小 計			1,276,159	
6		営繕費				
	1		消防設備点検改修工事		287,980	年 3 回
	2		自動ドア定期保安料		95,040	
	3		電気安全保安管理費		198,000	
		小 計			581,020	
		支出合計			3,600,459	
			次年度繰越金		▲ 260,171	

護持会会長

護持会会計

護持会会計監査

我妻隆介

矢島昭八郎

有泉春夫



以上の通りご報告致します。